

## 「オレンジのキーホルダー」

福岡市立香椎第3中学校

藤野 由佳

大学生の姉は唐揚げ屋でアルバイトをしている。大学までの片道二時間近い通学時間の長さから、この夏大学近くにひとり暮らしをすることになり、引っ越しのため、開店当初から三年間働いた唐揚げ屋のアルバイトを、辞めることになった。よく買いに来てくれるお得意様のとあるおばあさんが、

「さびしくなるねえ。今度趣味で作っているビーズのキーホルダーを三つ持って来るから、好きな色選んで。」

と言ってくださったそう。唐揚げ屋アルバイト最終日、おばあさんが緑、紫、オレンジ色のキーホルダーを持ってきて、姉はオレンジ色のキーホルダーをもらって帰り、うれしそうに見せてくれた。しかし、その後なんのお礼もできないことが心残りのようだった。そんな姉を見て母が、

「社会人になってしっかり税金を納めることで少しは恩返しできるかもよ。」

と言った。

「なるほどね。」

姉は納得の笑顔を見せたが、私は最初全く意味が分からず、税金を払うことがなぜ恩返しになるのか、母はなにか気休めで冗談を言っているのかと思った。どういうことかたずねると、納めた税金は社会保障、つまり医療、年金、介護、福祉といった主に高齢者を支えるところに一番多く使われているから、ということらしい。しかしこれからの日本は少子高齢化によって、社会保障の費用が増え続け、働き手の負担も大きくなるという厳しい現実も話してくれた。私は少し心配になったのもあって、税金について調べてみることにした。

この夏、猛暑のせい、度々目撃した救急車、学校で使われている教科書や備品、自分が行く病院の受診料や薬代が少額で済むのも税金のおかげだということを知り、高齢者だけでなく子どもである私も税金の恩恵を日常生活のあらゆる場面で受けていることを改めて実感した。

私も将来、税金を納める働き手になることで、今まで支えてくれた方々に恩返しをしたいと強く思った。おばあさんが姉にくれたオレンジのキーホルダーを見るたびに思う。あのキーホルダーは、日本の将来を担う世代に託されたバトンなのかもしれない。